

# 英検4級必須文法10選： これだけ覚えればOK！

英検4級に合格するための必須文法を紹介します。この資料を参考に、確実にマスターしていきましょう。

**本プレゼンは、英検4級合格に必要な文法を理解するためのものです。  
しっかりと学習を進めましょう。**



**Our Goal 01**

### 目的を明確に

このプレゼンの目的は、英検4級の合格に向けて、必須の文法を体系的に学ぶことです。具体的な目標を持って取り組むことで、効率的に学習が進むでしょう。



**Our Goal 02**

### 現在と理想の状態

現在の状態では文法に混乱を感じている方も多いかもかもしれません。しかし、理想の状態は文法を理解し、自信を持って試験に臨むことです。このプレゼンでその手助けをします。



**Our Goal 03**

### 目指すべきゴール

本プレゼンを通じて、自分の実力を確認しながら文法を習得しましょう。合格に必要な知識をしっかりと身につけ、自分に自信を持って挑戦することが大切です。

**文法は試験に必要な基礎知識であり、学習の出発点です。  
重要性を理解しましょう。**



**Our Goal 01**

### 英検4級の要件

英検4級では、特に文法力が問われます。正しい文法を使うことで、スピーキングやリスニングにも効果が出てきます。文法の基礎を固めることが合格の鍵です。



**Our Goal 02**

### 基礎を固める意義

文法をしっかりとマスターすることで、英語の運用能力が飛躍的に向上します。このプレゼンテーションで紹介する文法項目を集中的に学び、基礎力を向上させましょう。



**Our Goal 03**

### 効率的な学習提案

効率的に学習するためには、各文法項目を理解し問題に取り組むことが重要です。学習計画を作成し、計画的に進めることが合格への近道です。

## 1. be動詞 (am / is / are)

**be動詞は英語の基本で、状態を表現するために必要です。  
しっかり覚えましょう。**

### be動詞の役割

be動詞は、自分や他の人、物事の状態や属性を示す基本的な動詞です。英語を学ぶ上で非常に重要な役割を果たします。これをマスターすることで、文章の表現力が高まります。

### 使用例に学ぶ

例文として「I am a student.」や「They are happy.」があります。このような簡単な文から始め、徐々に複雑な文に挑戦していくことで、be動詞の扱いに慣れます。

### 注意点

be動詞は、主語によって形が変わります。例えば、単数形の主語には「is」を、複数形の主語には「are」を使います。このルールをしっかり覚え、正確に使えるようにしましょう。

## 2. 一般動詞 (play / like / eat など)

一般動詞は行動を表すため、日常会話で頻繁に使われます。  
理解を深めましょう。



### 使用例を知る

例文として「I like soccer.」や「She eats breakfast.」を挙げることができます。このように、普段の生活に関連した動詞を覚えることで、実践的な英語力を身につけましょう。



### 一般動詞の重要性

一般動詞は、行動や状態を表現する際に欠かせない動詞です。毎日の会話や文章に多く登場するため、理解し扱う能力を身につけることが必要です。



### 主語との一致

一般動詞を使う際には、主語と動詞が一致することが重要です。「He plays」や「They play」のように、主語に応じた動詞の形に注意を払いましょう。正確な文が作成できるようになります。

### 3. 現在進行形：be動詞 + ～ing

**現在進行形は、今実際に行っている動作を表現する重要な文法です。  
定義を理解しましょう。**



Our Goal 01

#### 現在進行形の定義

現在進行形は、今行っている動作を表す文法です。「be動詞」と動詞の-ing形を組み合わせることで表現します。この形は、現在の状況を示すために非常に重要です。



Our Goal 02

#### 使用例を見てみよう

例文として「I am studying now.」や「They are playing outside.」があります。これらの例を通じて、動作が今まさに行われていることが伝わることを理解できます。



Our Goal 03

#### 注意すべき点

現在進行形では、必ずbe動詞の形が正しく選ばれていることに注意しましょう。「I am」や「They are」など、主語に応じた形を常に確認することが求められます。

## 4. 過去形 (played / ate / went ...)

**過去形は過去の行動を表現するため、英語の基礎を築く上で必要です。  
理解を深めましょう。**

### 過去形の重要性

過去形は、過去の出来事や行動を表現するために使われます。適切に使用することで、過去の事象をしっかりと伝えることができ、会話の幅を広げることが可能です。

### 具体的な使用例

例として「I played soccer yesterday.」や「She went to the store last week.」があります。このように、過去の出来事を表す際には過去形が不可欠です。

### 不規則動詞への注意

過去形には不規則動詞が多く存在します。「go」→「went」や「eat」→「ate」のように、変化の仕方をしっかりと覚えることが必要です。これらの動詞は、特に試験で注意が必要です。

## 5. can : ~できる

「can」は能力や可能性を表現する大切な助動詞です。  
正しく使いこなすことが鍵です。



### 使用例を確認

例文として「I can swim.」や「Can you help me?」が挙げられます。これらの文を通じて、能力や依頼を適切に表現することができます。



### canの基本

「can」は、能力や許可、可能性などを表現するために使う助動詞です。この動詞を使えば、自分や他人の能力を表現できます。英語の中で頻繁に使用される表現です。



### 疑問文と否定文

「can」は疑問文や否定文でも活用されます。例えば「Can I go?」や「I can't play.」などの形で、状況に応じた使い方を覚えておくことが重要です。注意深く使いこなす練習をしましょう。

## 6. There is / There are : ～がある・いる

「There is」と「There are」は存在を表す重要なフレーズです。  
それぞれの使い方を理解しましょう。



### 使用例で確認

例文として「There is a book on the table.」や「There are two apples in the basket.」があります。これらを通じて、存在を表す方法を具体的に学ぶことができます。



### 基本的な使い方

「There is」は単数のものや人を、「There are」は複数のものや人を表す際に使われます。これにより、物の存在を簡潔に表現できます。英語表現の基礎の一つです。



### 単数・複数の注意

単数と複数の使い分けが重要です。例えば「There is a cat」vs 「There are cats」など、主語や文に合わせて適切に使い分ける練習が必要です。正しい表現を意識し、使いこなしていきましょう。

## 7. 疑問詞 (What / Where / When / Who / How)

**疑問詞は質問を作るための重要な言葉です。  
しっかりと使い方を理解しましょう。**



**Our Goal 01**

### 疑問詞の種類

疑問詞には「What」、「Where」、「When」、「Who」、「How」があります。これらを使うことで、相手に質問することができ、会話がスムーズになります。



**Our Goal 02**

### 使用例を学ぶ

例文として「What is your name?」や「Where do you live?」があります。こうした具体的な質問により、自分の意図を簡潔に伝える手段を身につけることができます。



**Our Goal 03**

### 正しい使い方

疑問詞を使う際には、適切な文脈で選ぶことが大切です。質問の内容によって、正しく疑問詞を使うことで、明瞭なコミュニケーションが可能になります。

## 8. 命令文：Sit down. / Open the door.

**命令文は相手に行動を促すために使われます。  
基本を押さえましょう。**



### 命令文の基本

命令文は、相手に特定の行動を求める際に用います。相手が直接行動できるように、動詞の原形を使います。この形式は非常にシンプルです。



### 具体的な使用例

例文として「Sit down, please.」や「Open the door!」があります。これらの文から、命令文の使い方を理解しやすいケースを覚えておく助けになります。



### 丁寧な表現

命令文では、丁寧さも重要です。「Please」を添えたり、文のトーンを考慮することで、相手の気持ちを考慮した表現力を持つことが求められます。

## 比較級は物事を比較する際の表現方法です。 ルールを理解しましょう。



### Our Goal 01

#### 比較級の定義

比較級は二つ以上の物事や人を比較する際に用いる文法です。「-er」をつけるか、「more」を使って表現します。正しい使い方が求められます。



### Our Goal 02

#### 使用例の理解

例文として「She is taller than me.」や「This book is more interesting than that one.」があります。実際の比較を通じて、どのように表現すべきかがよく分かります。



### Our Goal 03

#### 規則変化と不規則

比較級には規則変化と不規則変化があります。「big → bigger」、「good → better」のように覚える必要があるため、違いを意識して学ぶことが不可欠です。

## 10. 目的語のある動詞＋前置詞（look at / listen to）

### 目的語のある動詞と前置詞の組み合わせで、 特定の対象に対する行動を表現します。

#### 基本的な構文

目的語のある動詞は、他者に対して何かをする行動を示します。これには前置詞が必要です。「look at」や「listen to」がその例です。この構文をマスターすることが重要です。

#### 使用例の確認

例文として「I look at the sky.」や「He listens to music.」があります。これらの表現を通じて、特定の対象に焦点を合わせた行動を効果的に伝えることができます。

#### 前置詞の選び方

前置詞の使い方に注意しましょう。「look at」は対象を見ていることを、「listen to」は音を聴くことを示します。文脈に応じて適切に選ぶ練習が必要です。

これまで学んだ10項目を押さえることで、英検4級合格が近づきます。  
実践に活かしましょう。

01

### 10項目の重要性

これら10項目を理解し、使いこなすことが英検4級合格に大きく寄与します。文法の基礎を固めることが試験での成功につながります。

02

### 学んだことを振り返る

それぞれのポイントを振り返り、何が理解できているか確認しましょう。問題演習を通じて、文法の応用力を高めることも効果的です。

03

### 次のステップ

最後に、実践問題を解いて理解を深めることをおすすめします。ようやく学んだ内容を試すことで、記憶に定着し、実力が向上します。